

EAAFPの概要と最近の国内での取組について



環境省自然環境局野生生物課 池田 厚志

東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ

(※フライウェイ：渡りの経路)

目的

- ・ 渡り性水鳥とその生息地の保全
- ・ 関係する多様な主体による国際的な連携・協力を促進

発足経緯等

- ・ 2006年、日豪政府の主導により発足
- ・ 事務局は、韓国インチョン市に所在
- ・ ラムサール条約の地域イニシアティブ



参加主体

関係国政府（18） 豪州、**日本**、米国、ロシア、韓国、インドネシア、シンガポール、フィリピン、カンボジア、中国、バングラデシュ、タイ、モンゴル、NZ、マレーシア、ミャンマー、ベトナム、北朝鮮

国際機関、NGO等（21） ラムサール条約、生物多様性条約、ボン条約、FAO、CAFF、ASEAN生物多様性センター、IUCN、WI、BLI、野鳥の会等

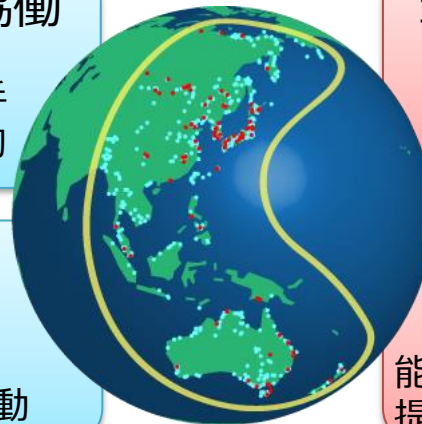
機能 刈ッ

全ての関係国・機関との協働

※二国間渡り鳥等保護協定等の相手国は米・露・豪・中・韓と限定的

フライウェイ規模の調査・保全活動

15の作業部会、特別委員会等が活動



生息地間のネットワーク強化

国内34か所が参加（全体153か所）
ラムサール登録や姉妹湿地提携に貢献

生息地管理者の能力養成、活動支援等

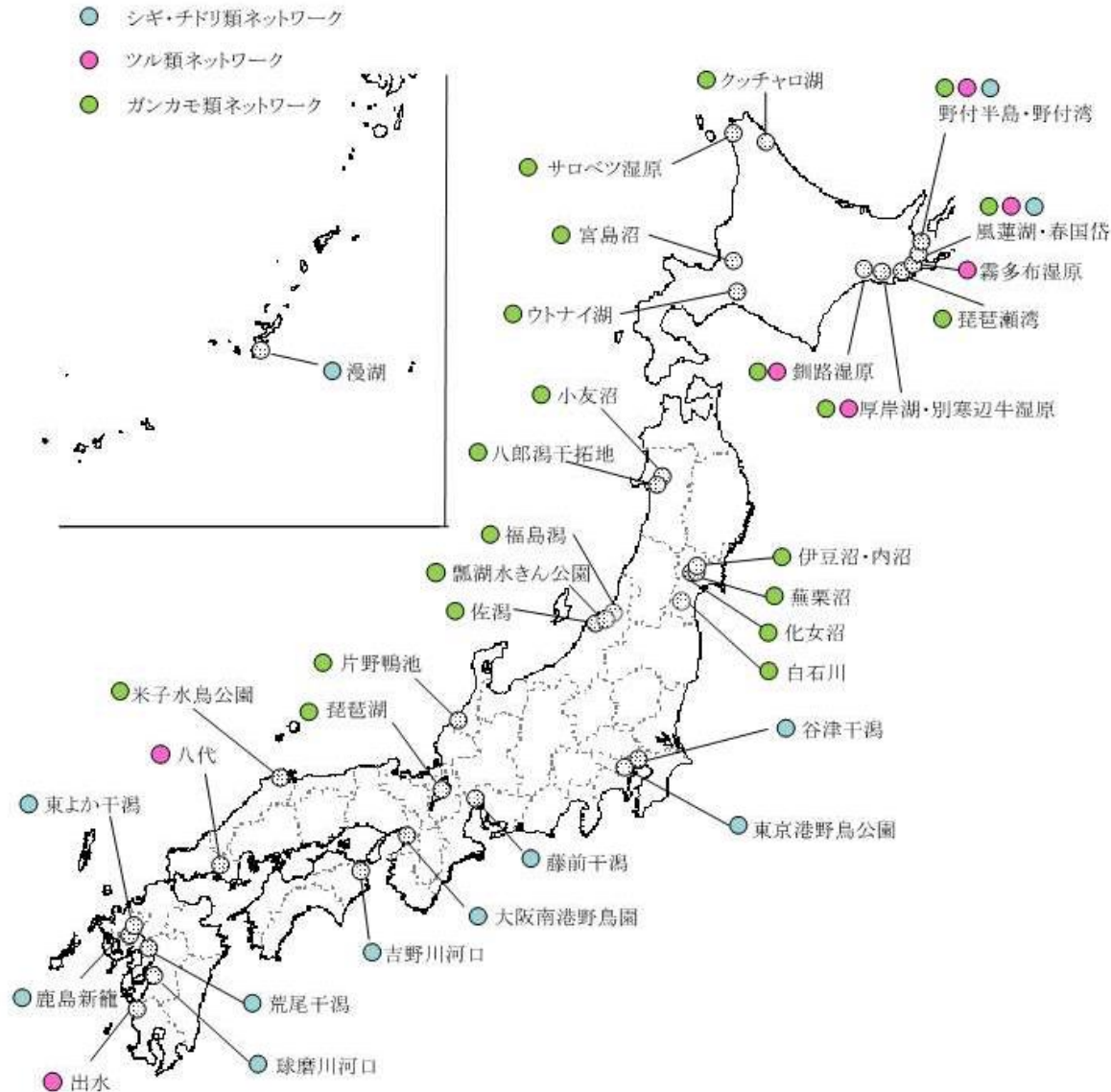
能力養成ワークショップ、科学的知見の提供・交換、普及啓発キャンペーン

➡ **効果的な渡り性水鳥の保全**

➡ **関係者による自主的な取組促進**

日本のネットワーク参加地：34か所

○日本のEAAFPネットワーク参加地(34サイト)位置図



国内におけるネットワークの体制

EAAFP事務局（韓国・仁川）

環境省（政府パートナー）
事務局（バードライフ・インターナショナル東京）

ガンカモ類

国内コーディネーター

（中海水鳥国際交流基金財団 神谷 要）

専門家

ネットワーク参加地：20か所
（施設管理者、行政担当者、
NGO等）

シギ・チドリ類

国内コーディネーター

（バードリサーチ 守屋年史）

専門家

ネットワーク参加地：12か所
（施設管理者、行政担当者、
NGO等）

ツル類

国内コーディネーター

（日本ツル・コウノトリネットワーク
松本文雄）

専門家

ネットワーク参加地：7か所
（施設管理者、行政担当者、
NGO等）

種群ネットワークの活動

- ・ ニュースレターの発行
- ・ メーリングリスト等による情報共有
- ・ コーディネーターによる情報収集等



●世界渡り鳥の日 2020
World Migratory Bird Day



渡り鳥の保護を訴える世界渡り鳥の日は、春と秋の二回あります。毎年5月と10月の第2土曜日となっており、今年は、2020年5月9日（土）と2020年10月10日（土）です。今年のテーマは、「Birds Connect Our World」（鳥が私たちの世界をつなぐ）です。渡り鳥の移動と、その生存に不可欠な生態系の保全の重要性を強調することを目的に選ばれました。WBD 2020 についてページが作成されています。各サイトでイベントをぜひご覧ください。

https://www.worldmigratorybirdday.org/

●「フロッグフラッグ・チャレンジコンテスト」実施中

世界渡り鳥の日の企画として東アジア・オーストラリア地域フライング・パートナーシップ国際事務局のホームページでは、「フロッグチャレンジ・フォトコンテスト」を実施しています。

2020/10/11 No.191	「東アジア地域ガンカモ類重要生息地ネットワーク」 国内コーディネーター通信	1/2
----------------------	--	-----

今年撮影されたフラッグもしくは、カラーマーキングされた首輪・足環を撮影された鳥の写真を2020年11月15日までに送ってください。



詳しくは、

https://www.eaaflyway.net/legflagchallenge.php
hotacontest_2020/

●西太平洋フライングにおけるコハクチョウへのカラーマーキングについて

ロシア科学アカデミー (Olena Schoryeva) と中国科学院生態環境科学研究所 (Gao Lei 教授) のグループは成鳥と幼鳥の自鳥の生存率を推定するために2016年から2020年にかけてチャウン翼(オシロイ)で234羽のコハクチョウに標識をつけています。2019年までに標識した181羽のうち、81羽が日本で確認されました。今後輪が外れていく可能性もありますが、寿命を測る調査での足環などに代って観察するよう、お問い合わせください。



JCSN ニュースレター

2022年9月
発行 日本ツル・コウノトリネットワーク

第39号

★昨年の越冬状況

○北海道のタンチョウ

北海道が行っているタンチョウ越冬分布調査が2022年1月25日に行われました。結果は総数1,489羽（成鳥1,359羽、幼鳥90羽、不明40羽）となり、過去最多の記録となりました。ただし、幼鳥90羽はかなり低い数字です（前年は141羽）。

分布の割合としては大きな給餌場がある網走管内の割合が減少し、他の管内で増加している傾向が見られました。幼鳥数の減少に関しては、春先の大雨による繁殖率の悪化の可能性が指摘されています。ただ、この調査は地域によって調査精度にも違いがあり、生息数のモニタリングとしてはいろいろな問題点もあります（数年前より「越冬分布調査」と名前も変わりました）。今後の調査のあり方についても専門家から意見がでています（以上、報道発表資料より <https://www.kushiro-pref.hokkaido.lg.jp/ts/tse/tse/hodou0403.html>）

NPO法人タンチョウ保護研究グループが1月21日から11日間かけて行った総数調査では、総数1,800羽（503単位の数）で、そのうち幼鳥は1

57羽と報告されています。（<http://www6.marimo.or.jp/tancho1213/news20220316.html>）

昨年は、1,900羽（幼鳥は222羽）ですので、減少していますが、誤差もありますので、実際の個体群動態がどうなっているかは継続した調査が必要でした。

○出来のナベヅル・マナヅル

2021年10月18日にナベヅル17羽、マナヅル18羽が初渡来しました。鹿児島県ツル保護会による羽数調査は5回実施され（下記の表参照）、最終的な推定渡来数はナベヅル15,511羽（11/27）、マナヅル2,182羽（1/9）、クロヅル9羽、カナヅル8羽、ソデグロヅル1羽、ハイブリッド羽以上となりました。前年度に比べて、マナヅルが少し減りましたが（前年度は2,800羽）大きな変動はありませんでした。なお、ソデグロヅルは2羽飛来しましたが、11月に渡来した2羽目は同日に死亡しました。標識ツルはナベヅル12羽、マナヅル1羽を確認しています。こちらもマナヅルは昨年7羽でしたので少なくなっています。

2021年度出水ツル羽数調査結果（鹿児島県ツル保護会）

	ナベヅル	マナヅル	クロヅル	カナヅル	ソデグロヅル	ハイブリッド	計
11月6日	7,768	88	5	3	1		7,865
11月27日	15,511	1,314	8	4	1	2	16,840
12月4日	15,145	1,546	8	4	1	2	16,706
12月18日	14,040	1,315	9	4	1	2	15,371
1月9日	12,469	2,182	9	8	1	2+	14,671



2021年度冬の結果の概要

モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査の2021年度冬期（2021年12月～2022年2月）の概要をお知らせします。

●個体数は前年より減少

2021年度冬期調査は、2021年12月1日から2022年2月28日までの期間に全国100か所のサイト（暫定値）で調査を実施しました（前年度冬期は104サイト）。

最大個体数（調査期間中に記録された各種個体数の最大値）の集計は、シギ・チドリ類43種40,865羽。そのうち希少種では、ツクシガモ6,691羽、ヘラサギ92羽、クロツラヘラサギ540羽、ズグロカモ6,193羽が記録されました。一斉調査（2022年1月16日を基準日とした前後1週間内の調査）へは、85サイトが参加し（前年度は83サイト）、シギ・チドリ類 37種17,893羽が記録され、そのうち希少種では、ツクシガモ1,124羽、ヘラサギ31羽、クロツラヘラサギ174羽、ズグロカモ889羽が記録されました。

1999年度以降の冬期調査における「全サイト」の最大個体数合計（全サイト）と「調査が継続されているサイトの最大個体数合計（継続サイト）」の経年変化を図1に示しました。全サイトの最大個体数合計は、前年度冬期と比べ-15.1%減少し、継続サイト（35サイト）では前年度冬期と比べて-8.2%の減少でした。また、冬期調査では、ハマシギ（68.0%）、シロチドリ（7.7%）、ダイゼン（7.0%）、ムナグロ（4.2%）、ミミズシギ

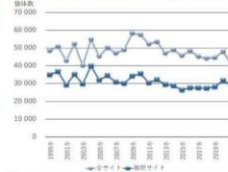


図1. 冬期調査における全サイトと継続調査しているサイトの最大個体数合計の経年変化（1999年度から2021年度の継続平均値）

（2.0%）が優占していました（図2）。ハマシギが約70%を占めていたことや、優占する上位5種は前年と比べ変化はありませんでしたが、ミミズシギの割合が小さくなり、ムナグロの割合が大きくなりました。また、個体

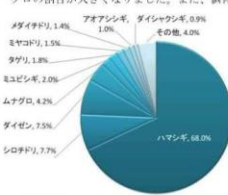


図2. 2021年度冬期調査の種構成

（各種群のニュースレターより引用）

渡り性水鳥フライウェイ全国大会



- 種群を超えたネットワーク参加地間の情報交換・交流の促進を目的として、2021年度より開催
- 各ネットワーク参加地や保全活動の紹介、渡り鳥の保全に関連するテーマを設けて発表者を募り、情報共有を図る
- 2022年度は2日間の日程で、現地視察も実施し、サイト間でのより一層の情報共有・交流促進などを図る

モニタリング検討会

- 2021年度より、国内のネットワーク参加地において蓄積されるモニタリングデータの解析に焦点を当て、ネットワーク参加地において、より効果的なモニタリングを実施するため検討会を開催
- 気候変動が渡り性水鳥の渡りに及ぼす影響について把握するため、宮島沼のマガン・谷津干潟のシギ・チドリのモニタリングデータの先行的な解析を実施
- 今年度内に上記解析に係る報告書を取りまとめ、公表

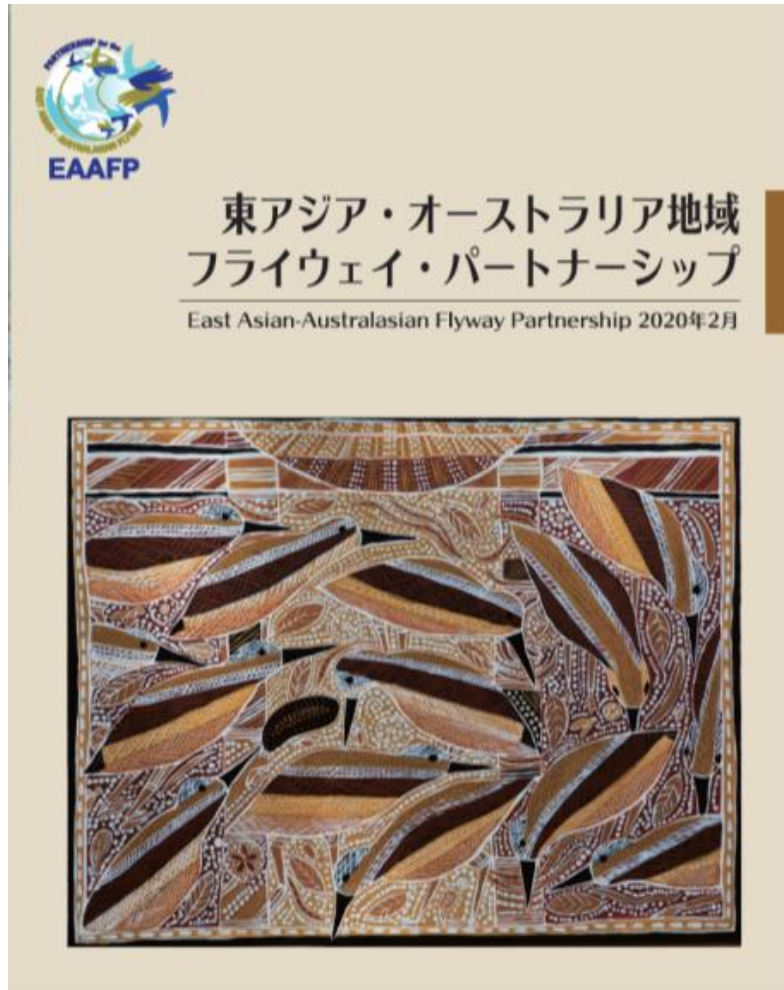
EAAFP国内連絡会

- 国内の活動や渡り性水鳥・生息地の保全状況等の報告、次年度の活動予定、モニタリング検討会の報告や今後の活動計画などについて議論を行う
- 今年度の国内連絡会は、2月15日に開催予定
2023年3月に豪州ブリスベンで開催される、第11回パートナー会議（MOP11）の議題に関する我が国の取組状況、方針について検討

※パートナー会議（MOP）は、EAAFPの最高意思決定機関であり、およそ2年に一度の頻度で開催される



普及啓発ツールの作成



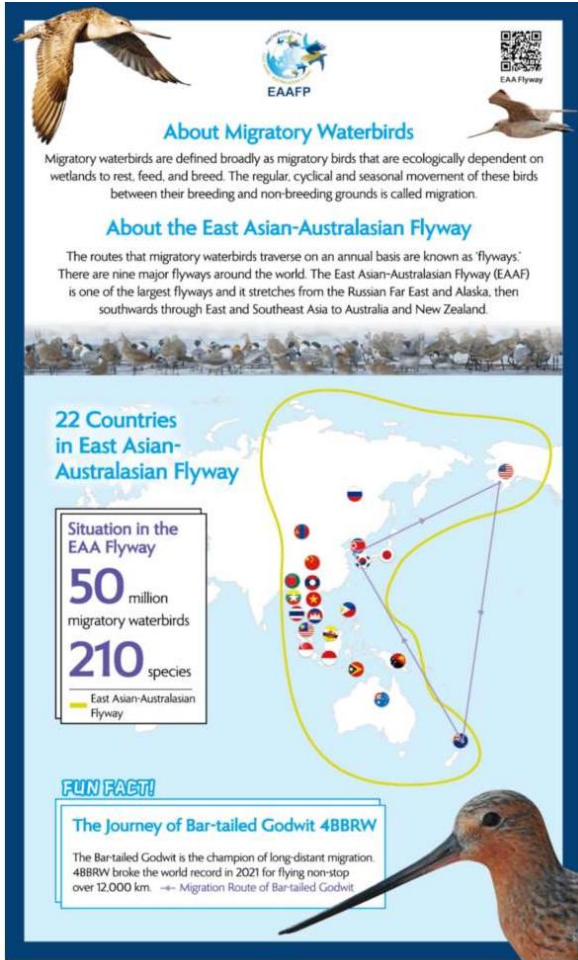
2020作成 冊子20P

(東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ事務局発行)



環境省作成 ネットワーク参加地A4チラシ

普及啓発ツールの作成



About Migratory Waterbirds

Migratory waterbirds are defined broadly as migratory birds that are ecologically dependent on wetlands to rest, feed, and breed. The regular, cyclical and seasonal movement of these birds between their breeding and non-breeding grounds is called migration.

About the East Asian-Australasian Flyway

The routes that migratory waterbirds traverse on an annual basis are known as 'flyways'. There are nine major flyways around the world. The East Asian-Australasian Flyway (EAAF) is one of the largest flyways and it stretches from the Russian Far East and Alaska, then southwards through East and Southeast Asia to Australia and New Zealand.

22 Countries in East Asian-Australasian Flyway

Situation in the EAA Flyway

50 million migratory waterbirds
210 species

FUN FACT!

The Journey of Bar-tailed Godwit 4BBRW

The Bar-tailed Godwit is the champion of long-distance migration. 4BBRW broke the world record in 2021 for flying non-stop over 12,000 km. → Migration Route of Bar-tailed Godwit



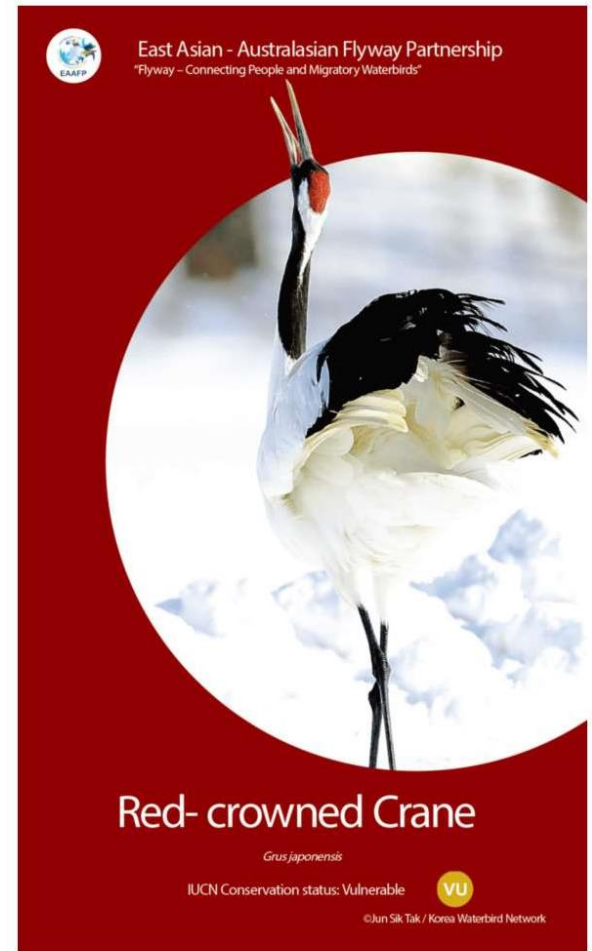
East Asian - Australasian Flyway Partnership
"Flyway - Connecting People and Migratory Waterbirds"

Black-faced Spoonbill

Platalea minor

IUCN Conservation status: Endangered **EN**

©Kisup Lee



East Asian - Australasian Flyway Partnership
"Flyway - Connecting People and Migratory Waterbirds"

Red-crowned Crane

Grus japonensis

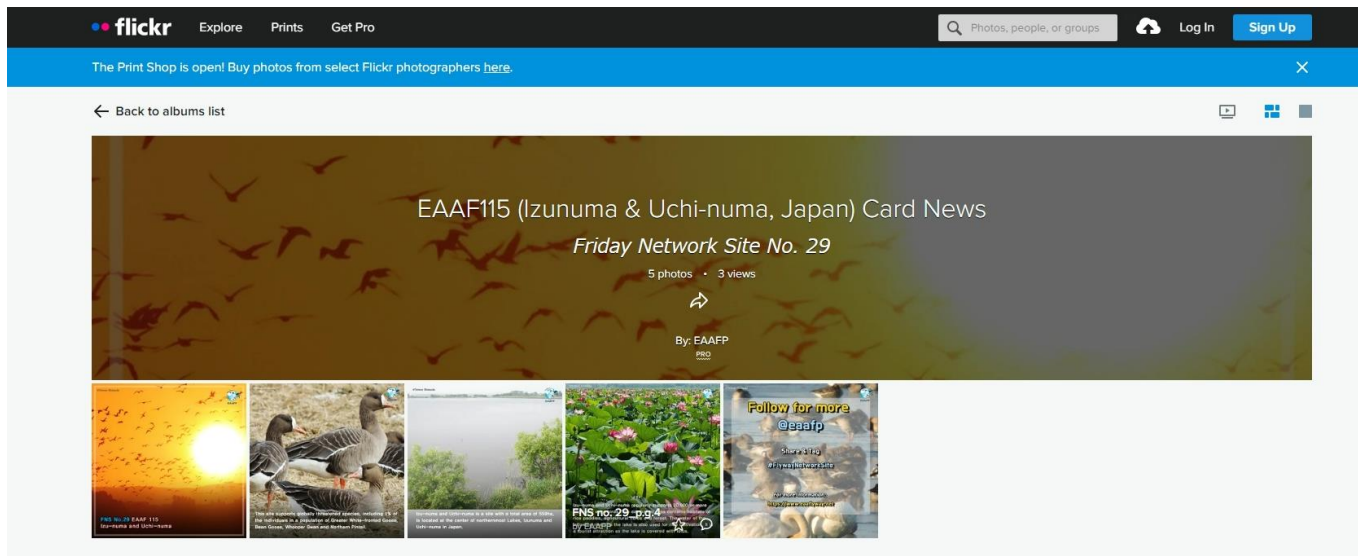
IUCN Conservation status: Vulnerable **VU**

©Jun Sik Tak / Korea Waterbird Network

EAAFP事務局ホームページ (<https://www.eaaflyway.net/eaafp-banners/>) より

※EAAFP事務局が公表したバナーデザインを活用し、ポスターを作成予定

「Friday Network Site ソーシャルメディア」 キャンペーン



- EAAFP事務局では、毎週金曜日にフライウェイネットワークサイトを1つ紹介する「**Friday Network Site ソーシャルメディア**」キャンペーンを実施中。
- 現在、日本のサイトのうち、サロベツ湿原、伊豆沼・内沼、東京港野鳥公園 東よか干潟、荒尾干潟の5つのサイトが紹介されている。

【Friday Network Site ソーシャルメディアキャンペーンHP】
<https://www.flickr.com/photos/eaafp/collections/72157715002211331/>

2月2日は「世界湿地の日」



World Wetlands Day Events (ラムサール事務局HPより)

- 2月2日は国連が定めた「**世界湿地の日**」。ラムサール事務局が毎年テーマを決定し湿地保全の啓発に取り組んでいる。今年のテーマは「**湿地の再生**」。
- この日にあわせて世界各地で開催されるイベントが、ラムサール事務局のホームページに登録されている。日本からも、今日現在では7件のイベントが登録されている。
- 今回の「フライウェイ全国大会」も、ラムサール条約湿地谷津干潟で開催されることから、「**世界湿地の日**」の関連イベントとして登録済。